しろちどり

第 108 号

2021 年 3 月
日本野鳥の会三重　http://miebird.org/

チュウヒの繁殖継続の危機
～木曽岬干拓地のさらなる開発計画をしないように要請～

保護部　桑名市　近藤 義孝

木曽岬干拓地ではチュウヒが継続的に繁殖しています。日本野鳥の会三重と愛知県野鳥保護連絡協議会 (日本野鳥の会愛知県支部などが所属) は木曽岬干拓地におけるチュウヒの繁殖や越冬期のねぐら入り、鳥類の生息状況を 2001 年から調査しています。

昨年 12 月 22 日に三重県は、運動広場を整備する予定だった木曽岬干拓地（木曽岬町）の約 60 ヘクタール分について、公共工事で発生した建設残土置き場とする方針を明らかにしました。

そのため、下記の要請を 3 団体連名で三重県に提出しました。併せて、資料も載せます。

木曽岬干拓地　右手奥が今回の開発計画地

目次

チュウヒの繁殖継続の危機 ～木曽岬干拓地のさらなる開発計画をしないように要請～ --------- 2
表紙の言葉 ---------- 2
拡大するジョウビタキの繁殖---------- 4
この冬のミヤコドリ---------- 7
鳥羽市船津町のタカ渡り---------- 7
シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化
—連載第 23 回 ケリとタゲリ—---------- 8
会報への投稿を歓迎します・
会報の公開について----------13
ほのぼの鳥さん Watching----------14
野鳥記録 ----------16
事務局だより ----------19
探鳥会報告（2020 年 11 月～ 2021 年 1 月）----20
ガンカモ調査終了 ----------24
編集後記 ----------24

表紙の言葉

イソヒヨドリ

度会町　小坂 里香

春になると朗々と美声を響かせるイソヒヨドリ。オスの美しい羽色は、普通腫でなければカメラマンの人気の的となりそうですが、幸い追っかけの対象にはならないようです。

近所のイソヒヨドリもまもなく、子育てで忙しいシーズンを迎えます。公園の散歩道で、太った芋虫をさかんに振り回していました。巣の中で、ヒナが 大きな口を開けて 待っているのでしょう。

新型コロナに振り回される人間界ですが、自然の営みはこの春も粛々と行われることと思います。

2021 年 2 月 1 日

三重県知事　鈴木 英敬　様

日本野鳥の会三重　代表　平井 正志
日本野鳥の会愛知県支部　代表　新實 豊
公益財団法人日本野鳥の会　理事長　遠藤 孝一

木曽岬干拓地のさらなる開発を中止してください (要請)

中日新聞（2020 年 12 月 23 日付、三重総合面）によると三重県は木曽岬干拓地におけるチュウヒ（環境省・絶滅危惧ⅠB 類／国内希少野生動植物種）の採餌および繁殖場所の一部を今回新たに、残土置き場として開発するとのことである。木曽岬干拓地（444ha）はかつて農業用地として干拓されたが、しかし、農地としては利用が進まず放置され、やがて湿性草原となり、近年はチュウヒが繁殖するようになった。2004 年までチュウヒ 3 つがいが繁殖活動に入り、2003 年には 3 つがいとも繁殖に成功した。しかし、三重県は 2006 年から木曽岬干拓地の北側の埋め立を開始し、ストックヤードやわんぱく広場として約 85ha が埋め立てられたことにより、チュウヒの採餌および繁殖場所ではなくなってしまった。その際、代償措置として三重県は干拓地の南端約 65ha を造成し、3 つがいの営巣を目標とするチュウヒ保護区を設置した。しかし、その後、上記のような 3 つがいの営巣は見られず、代償措置の保護区が 3 つがいの営巣を支えるのには到底十分な面積ではなく、三重県の想定が誤っていたことは明白である。しかし、その誤りの原因を究明しようとはせず、その後、2013 年にはさらに伊勢湾岸自動車道の南側約 65ha にソーラーパネルを設置した。これにより、チュウヒの採餌および繁殖場所はますます狭くなった。チュウヒは 2012 年以降、1 つがいしか繁殖行動に入らなくなり、繁殖に失敗した年もある。それは、採餌面積の縮小が大きく影響しているものと考える。

今回の残土置き場など開発予定地は 2015 年及び 2016 年にチュウヒが営巣した場所でもあるが、今回の開発が行われることで、残る 1 つがいのチュウヒの繁殖すらできなくなる可能性が極めて高い。

チュウヒは 2017 年 8 月 29 日に種の保存法における国内希少野生動植物種の指定種となることが閣議決定された。本州中部以西で繁殖が継続されているのは河北潟と木曽岬干拓地などわずかな場所しか残っていないが、この三重県の方針は　チュウヒの繁殖を絶滅に追いやるものである。

三重県はこのような開発を行うべきでなく、むしろチュウヒ保護の施策を積極的に行うべきである。

要請の説明資料

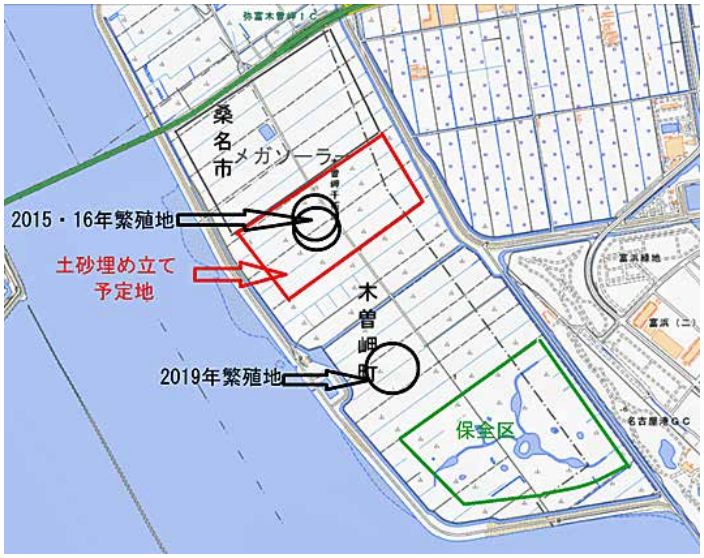
表。木曽岬干拓地でのチュウヒの繁殖状況 (日本野鳥の会三重などの調査)

年	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
営巣数	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1
繁殖成功巣数	0	3	2	1	1	1	1	2	0	0	0	1	1	1	1	0	0	1	0
巣立った幼鳥	0	3	2	2	1	1	3	6	0	0	0	3	2	4	3	0	0	1	0

注：2006 年から高速道路北側で埋め立て、2013 年からメガソーラー工事着手

木曽岬干拓地のチュウヒ

・繁殖に成功した営巣地



国土地理院地図を加工して作成

日本野鳥の会の 2020 年 12 月 10 日のプレスリリースではチュウヒの国内での繁殖数が 136 つがいであり、オジロワシ（150 つがい）、イヌワシ（241 つがい）、クマタカ（900 つがい）と比較し、もっとも繁殖数の少ない猛禽であるとしています。チュウヒの繁殖数は北海道 117 つがい、本州以南 19 つがいでであり、本州印南の内訳は、青森 4、秋田 4、石川 7、茨城 1、愛知 1、三重 1、福岡 1 としています。

また、本州以南では個体数の減少が激しく、2010 年頃までは 40 ～ 50 つがいほどが繁殖していましたが、現在は 19 つがいと、半数以下となってしまいました。その主な原因は、繁殖地となっている埋立地や造成地の植生遷移（ヨシ原の灌木・樹林化）のほか、太陽光発電施設などの開発行為やカメラマンの過度な接近など、人為的要因も大きく関わっています。

拡大するジョウビタキの繁殖

大塚之稔（日本野鳥の会岐阜　ジョウビタキ研究グループ）

ジョウビタキは冬鳥として全国各地の平地から山地の林縁、農耕地、河川敷の林などに飛来し、人家の庭先や市街地の公園などでも見られる馴染みのある鳥です。主な繁殖地はバイカル湖周辺、モンゴル、ウスリー地方、中国北部であると言われています（日本鳥学会 2012）。冬鳥として親しんできたジョウビタキが今、各地で繁殖を始めており、私の住む岐阜県でも高山市で繁殖が拡大しています。

ジョウビタキの繁殖が初めて記録されたのは、北海道上士幌町で 1983 年に雛 5 羽が巣立ったことが確認されました。鳥類では時折、偶発的な繁殖をすることがあり、これもそうではないかと考えられました。

ジョウビタキ　雄

本州での繁殖

2010 年 6 月、日本野鳥の会の創始者である中西悟堂氏の功績を巡る会が山梨県で行われ、参加していた中村滝男氏（生態系トラスト協会）が偶然、長野県富士見高原でジョウビタキの雄を発見しました。この時期にいるのはおかしいということになり､山梨県の林正敏氏（野鳥の会諏訪支部）が中心となって調査したところ、繁殖していたことが分かりました。これが本州初の発見となりました。林さん達はその後も八ヶ岳を中心に調査を継続し、富士見高原、霧ケ峰高原などで 2019 年までに 100 を超える巣を発見しています。最近は諏訪市内まで繁殖地が広がっているそうです。

長野県に続き、2013 年頃から他の県でも繁殖が確認されるようになりました。群馬県､山梨県、岡山県、兵庫県、鳥取県などです。

岐阜県での繁殖

岐阜県では 2015 年に高山市内の 3 か所で繁殖をしていることが分かりました。これが岐阜県の初記録となったのですが、実はその前年に兆候がありました。2014 年に高山市内の 7 か所で囀っている雄を確認しています。発見当時の様子を飛騨地域の会報（飛騨の野鳥 2014 年 8 月号）から抜き書きしてみます。『6 月 7 日　道路側からオオルリの声。声は住宅地の方から聞こえてくる。住宅地に向かっていくにしたがい声のリズムが違っていることに気づく。オオルリ特有の最後の“ジジッ“が無いし、長めのリズムではない。ホオジロに近い鳴き方かな。強いて言えばオオルリがホオジロの真似をした感じだった。後日の観察でホオジロとカワラヒワが近くで同時に鳴いているように聞こえた。声の主は住宅地の真ん中、電線にとまっている。「ジョウビタキだ！」』

表 1　高山市での繁殖数

2015 年	3 か所
2016 年	15 か所
2017 年	31 か所　下呂市 1 か所
2018 年	53 か所
2019 年	76 か所
2020 年	89 か所

この年は 6 月になると雄の囀りが聞かれなくなり、下旬には姿も消しました。雌が縄張り内に入ってこなかったのではないかと考えます。そして 2015 年の繁殖確認になりました。この年は雛 3 羽、5 羽の巣立ちを確認しています。

2016 年にはいきなり 15 か所に増えます。2017 年にはさらに倍の 31 か所になり、高山市の南 40㎞離れた下呂市でも繁殖が確認されました（表 1）。下呂市のつがいは連続して 3 回も繁殖し、5 羽の雛を巣立たせています。卵は合計 17 卵（5-6 卵）ですが無精卵が多かったようです。次の年にも繁殖を期待したのですが、雌しか現れませんでした。ところがなんと雌だけで巣作り、産卵、抱卵をしていることが分かりました。この個体は、ジョウビタキは雌だけでも繁殖が進行することを教えてくれたのです。表 1 の数の中には複数回繁殖のものも含まれています。

国土地理院地図を加工して作成

営巣場所　　高山市の営巣環境は特別？

ジョウビタキが巣を作った場所としては、住宅の玄関のひさしの上、雨どいの中、工場の換気扇、倉庫の中、ガレージの鉄骨の間など、分かっているものはほぼ 100% 人工物です。郵便受けというのもありました。キセキレイの巣場所をイメージしてもらえるとよいかと思います。

他府県の営巣場所もほぼ同様の人工物であると言われていますが、高山市の特徴は市街地にあるということです。山梨県では八ヶ岳山麓の別荘地、鳥取県でも大山山麓の高原の別荘地なのですが、高山市は住宅地の中に営巣地があり、目の前が通学路になっていたり、幼稚園のベランダであったり、人通りの多い所に巣が作られています。共通していることは数十 m 先には林があり、おそらく巣立ちした雛が入り込みやすいのではないかと考えられます。

高山市の繁殖環境

親と雛

カラーリングによる個体識別

調査を進めていくうち、いくつかの疑問が出てきました。高山市内では少数ですが、越冬する個体もいます。繁殖しているジョウビタキは越冬している個体なのか、それとも別の場所からやってくる個体なのか。つがい形成はどのように行われるのか。繁殖期間中、つがい関係は維持されるのか。翌年も同じつがいで繁殖するのか。巣立ちした幼鳥は何処へ行くのか。・・・等。下呂市のつがいは3回連続して繁殖したのですが、証拠がありません。この疑問を解決するには個体識別をするしかありません。そこで、環境省、岐阜県に捕獲許可を申請し、足にカラーリングを装着することにしました。2018年につがいの2羽、その後2020年までに41羽の巣内雛に足環を付けています。

その結果、2018年に足環を付けたつがいが3年連続して年3回繁殖したことが分かりました。2回繁殖する小鳥類がいることはよく知られていますが、3回連続とは驚きです。3月頃から繁殖を始め、8月頃に最後の雛が巣立ちします。繁殖期間もずいぶん長いことが分かります。

成鳥への標識

本当はもっと多くの個体に足環を付けたいのですが、大きな問題があることに気がつきました。繁殖場所が住宅地にあるため、カスミ網を張るのが気になります。もちろん市役所や警察には届けてありますが、あまり堂々と捕獲することができません。そこで目立たない場所の巣内雛に足環を付けました。ところが捕獲時期を間違えると、雛が巣から飛び出してしまい巣立ちそのものに影響を与えてしまいます。最善の時期を考えて捕獲をしました。一度付ければジョウビタキは足（ふしょ）が長いので観察には適しています。

雛への標識

奇跡的な発見

2020年3月、鳥取県支部の土居克夫氏から「岐阜県で足環付きジョウビタキの雄が撮影されたが、大塚さん達が付けたものではないですか？」という連絡が入りました。送られてきた写真を見てびっくり。我々が付けたものに間違いありません。場所は各務原市内の公園で、ここは航空自衛隊の航空機が離発着するところを撮影できるというマニアの方にとっては有名な場所だそうです。撮影者は三重県在住のSさん。たまたま航空機を撮影にきていたところ公園内で足環の付いたジョウビタキを発見し、撮影したということです。貴重な記録になるのではと、ジョウビタキの研究をしている土居さんを調べ、写真を送ったことが分かりました。色の組み合わせから、前年の6月6日、高山市内の巣内で足環を装着した6羽の内の1羽です。発見された場所は、巣立った場所から直線距離で100km離れています。この発見により巣立ち後にどのような場所で越冬しているかも分かりました。

足環を付けた鳥が再発見される確率は1%もないことを考えると、奇跡的な発見ですし、何よりも「よく生きていてくれたなあ。」と、感謝したい気持ちになりました。

終わりに

ジョウビタキの繁殖記録、標識調査は地元高山市在住の宝田延彦氏、直井清正氏の努力に他なりません。大塚は標識技術や申請書などのお手伝いをしただけです。宝田氏はほぼ毎日、早朝から勤務時間まで市内を徒歩や自転車で廻り、繁殖の状況を記録しました。今年もジョウビタキの繁殖が始まりますが、高山市では繁殖地域がどんどん広がっており、普通の鳥になりつつあります。

東海地方でも新たな繁殖地が見つかるのではと思いますが、近年の気候変動と関係しているのでしょうか。

この冬のミヤコドリ

津市　平井 正志

2019年夏にカムチャツカ半島で繁殖し、フラッグをつけられたミヤコドリのうち、T7は2020年11月14日に安濃川河口で観察されたが、その後2021年1月末まで行方が分かっていない。一方東京湾三番瀬で越夏したT6は　2020年12月25日　当会会員　唐津敏明氏により安濃川河口で観察された(野鳥記録参照)。東京湾と伊勢湾でのミヤコドリ個体の移動が確認されたのは初めてである。

この冬のミヤコドリカウントは　2020年12月21日、2021年1月21日に行われた。結果は右の表に示す通りである。12月のカウントではこれまでの最高数157羽がカウントされ、1月もほぼ同数が観察された。観察された場所は表のとおり、県北部の高松海岸と、中部の安濃川河口であった。最近は高松海岸に多くのミヤコドリが集中する傾向が見られる。

2月のカウントは2月22日に予定している。結果は来号に掲載予定。

なお、カウントには右記の会員が参加した。

調査地域	個体数	
	調査日 2020/12/21	調査日 2021/1/21
高松海岸	104	107
鈴鹿川河口	1	0
鈴鹿川派川河口	0	0
楠海岸	0	0
豊津～町屋浦海岸	0	0
安濃川河口	49	41
雲出川河口右岸～五主海岸	0	0
雲出川河口左岸～雲出古川	0	0
三渡川河口～阪内川河口	0	0
松阪港	0	0
金剛川河口	3	0
櫛田川河口	0	0
松名瀬海岸～大淀海岸・大湊	0	0
合計	157	148

今井 鈴子、今井 光昌、岡 八智子、片山 賢一、笹間 俊秋、田中 洋子、中村 洋子、西村 泉、平井 正志、前田 聡、吉崎 幸一、米倉 静（五十音順）、

鳥羽市船津町のタカ渡り

鳥羽市　川村 晴彦

観察日：2020年10月1日～10月10日
観察者：川村晴彦
場　所：鳥羽市船津町5丁目公民館裏、
　　加茂川左岸堤防

川村氏のタカ渡り観察記録は本来107号に掲載すべきでしたが、編集部の手違いで、掲載を忘れてしまいました。お詫びして、本108号に掲載します。

表1：2020年10月1日の観察結果

番号	時刻	種別	個体数	方角	備考
1	13:30	開始			遠く高い
2	14:25	種別不明	4	東（正面）～南	遠く高い
3	14:30	種別不明	1	南～西	遠く高い
4	14:35	種別不明	2	南～西	遠く高い
5	14:36	サシバ	7	南～西	
6	14:37	サシバ	3	南～西	
7	14:42	サシバ	7	東～南	
8	14:47	サシバ	6	東～上昇	
9	14:53	種別不明	2	東～上昇	遠く高い
10	14:56	種別不明	1	南東	遠く高い
11	15:30	終了			

表2：2020年10月1日～10月10日の観察結果

観察日	天候	風向	風力	観察時間	サシバ	ハチクマ	ノスリ	種別不明	計	備考
10月1日	快晴	東～北東	弱	13:30 ～ 15:30	23	0	0	10	33	表1 参照
10月2日	晴	北	弱	9:25 ～ 13:50	0	0	0	0	0	中断 3:00
10月3日	曇り	北	無風～微風	14:20 ～ 15:20	0	0	0	0	0	
10月5日	曇り	南～西～北	無風～弱	9:30 ～ 14:20	0	0	0	0	0	中断 1:10
10月6日	快晴	北	弱	9:30 ～ 11:10	0	0	0	0	0	
合計					23	0	0	10	33	

注）タカの種類は、近くを飛んだもの以外は特定できず。
　　ミサゴは、毎日、現れては魚の狩りをしていたが、頻繁に出現するのでカウントせず。

シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化
―連載第 23 回 ケリとタゲリ―

津市　今井 光昌

ケリは日本で見られるチドリ科の仲間では最大種ですが、全長 35㎝で中型シギのアオアシシギと同程度の大きさです。繁殖期には攻撃性が強くなり、巣やヒナに近づくカラスやトビだけでなく、人間にも威嚇や攻撃を仕掛けてきます。外敵に威嚇が効かない時には擬傷もします。

ケリは日本各地で記録があるものの分布は局地的で、生息数は多くありません。特に東北から関東にかけては生息数が少なく、東海から近畿に比較的多く生息し、農耕地や草地で見られますが、河川敷や内湾の干潟でも見かけます。小群での行動が普通ですが、秋の渡りの時期には数十羽の群れを見かけます。本州北部では夏鳥、中部では留鳥として繁殖もしています。三重県では 4 月上旬から 7 月初旬頃まで水田地帯で抱卵、育雛している光景を見ることができます。

一方、タゲリは本州以南に渡来する冬鳥で、北陸地方に数例の繁殖記録があります。三重県には 10 月下旬に渡来して 3 月下旬まで滞在するのが普通で、4 月上旬まで居残ることは稀です。生息域はケリとほぼ同じで、農耕地や草地の他、河川敷や干潟でも観察できます。通常は数羽から数十羽の群れで居ることが多いですが、100-200 羽の大きな群れを見かけることもあります (図 1)。

三重県で見られるシギ･チドリの多くは旅鳥で、春秋の渡りの時期に多くの種を観察できますが、冬季に観察できる種は少なく、ケリとタゲリは冬に観察できる貴重な存在です。風貌は両種共に個性的です。ケリは青灰色の頭に、赤い眼、黄色く長い足、先端部だけが黒い鮮やかな黄色の嘴、胸と腹との境界には黒帯があります（図 2)。また、翼先端は尖っており丸味がありません。一方、タゲリは後頭部の黒く長い冠羽が特徴で、体上面は金属光沢のある緑色、肩羽には赤褐色部があり、胸と腹の境にある黒帯は太いです（図 3)。タゲリの翼は幅広で、先端は丸く、ふわふわと優雅な飛び方をします（図 1)。なお、図 2 のケリは初列風切が換羽中です。

図 1　タゲリ　2011.11.15

図 2　ケリ　成鳥冬羽に換羽中　2010.07.20

図 3　タゲリ　成鳥冬羽　2015.02.23

ケリ

虹彩による年齢識別

ケリ幼鳥の虹彩は暗褐色ですが、成鳥の虹彩は赤橙色です。図４から図６は７月のケリです。成長にするにつれ虹彩の色が暗褐色から明るい赤橙色に変化していきます。ケリの幼鳥、若鳥（第１回夏羽）、成鳥の識別には虹彩の色による識別が有効です。

図４　ケリ幼鳥　2019.07.16

図５　ケリ第１回夏羽　2010.07.15

図６　ケリ成鳥冬羽　2010.07.18

雌雄の識別

ケリのつがいを見かけると体の大きい方が♂で、小さい方が♀ではと思いますが、わずかな体の大小で雌雄を見分けるには無理があります。また、繁殖期に嘴基部の肉塊の大小で雌雄の識別を試みても、歴然とした大小の差が判別できません。翼角の小翼羽近くにある翼爪の長さを確認できれば雌雄の判別はある程度できると言うことですが、野外で小翼羽に隠れている翼爪を観察することはまず無理です。ケリの雌雄の識別は野外では難しいと言えます。

図７　成鳥夏羽　2010.04.02

成鳥夏羽

成鳥夏羽は頭部から胸が青灰色です。眼は赤橙色の虹彩と明瞭な黄色い眼瞼輪が特徴的です。図７は４月初旬の擦れのない綺麗な夏羽個体です。図８は５月下旬の成鳥夏羽です。繁殖期になると擦れの目立つ個体が多くなります。図９は一段と擦れが進んだ夏羽後期の７月の羽衣です。なお、年齢に拘わらず胸の黒帯の幅や色合いには個体差があり、褐色のものから黒味が強いものまで見られます。

図８　成鳥夏羽　2016.05.30

図９　成鳥夏羽後期　2014.07.01

成鳥冬羽

ケリは冬羽への換羽が普通７月頃に始まります。夏羽の時に青灰色だった頭部から胸は、冬羽に換羽すると褐色味を帯びます。図 10 は８月 17 日の成鳥です。夏羽後期の激しく擦れた羽衣から、綺麗な冬羽の羽衣に換羽しています。図 11 は擦れが目立ってきた２月中旬の成鳥冬羽です。

図 10　成鳥冬羽　2020.08.17

図 11　成鳥冬羽　2013.02.14

幼綿羽と幼羽

生まれたてのヒナはふわふわの幼綿羽に覆われています（図 12）。幼綿羽から幼羽に１か月余りかけて全換羽します。幼鳥は頭部から胸、体上面が淡褐色で、新鮮な幼羽の肩羽・雨覆には淡色の羽縁があり、羽縁の内側に濃褐色のサブターミナルバンドがあります（図 13）。

図 12　ヒナ　2011.04.27

図 13　幼鳥　2008.06.06

第１回冬羽と第１回夏羽

図 14 の第１回冬羽は頭部から胸、体上面が淡褐色で、肩羽と雨覆に冬羽が出ています。雨覆の新しい冬羽は羽縁が淡色です。雨覆には幼羽も残っていますが、羽縁は擦れで消失しています。図 15 の第１回夏羽は各羽の摩耗が激しく、頭部は青灰色味が強いです。

図 14　第１回冬羽　2010.10.19

図 15　第１回夏羽　2013.06.02

タゲリ

チドリ科の中では渡来数の多いタゲリですが、完成度の高い夏羽を見る機会は稀です。夏羽の完成度が上がる前に渡去してしまうからです。晩秋から早春にかけてあちこちで観察されるため、普通種のイメージが強いタゲリですが、三重県で5月まで居残ったことは一度もありません。

タゲリは雌雄や年齢に関係なく後頭部に冠羽があります。通常、♂成鳥は♀や幼鳥より冠羽が長いですが、冠羽も生え変わります。換羽中で短い冠羽しかない時期は、冠羽の長短で年齢や雌雄の識別が出来ません。

♂成鳥夏羽

図16と図17は夏羽への換羽進行の早い同一個体です。3月9日にも拘わらず夏羽の完成度が高いです。♂成鳥夏羽は頭部から胸にかけての黒色が冬羽より濃くなり、喉も黒くなります。

図16　♂成鳥夏羽　2019.03.09

図17　♂成鳥夏羽　2019.03.09

♀成鳥夏羽

夏羽に換羽中の♂と似てはいますが、♀夏羽は頭頂・顔・胸の黒色部が褐色がかり、冠羽は短く、前頭と喉は♂夏羽のようにべったりとした黒色ではなく、部分的に白色部が残ります（図18-19）。

図18　♂成鳥夏羽　2011.04.09

図19　♀成鳥夏羽　2011.04.09

成鳥冬羽

成鳥冬羽は雌雄とも喉が白く、白色部が胸の黒色部に食い込みます（図 20）。♂成鳥に比べて♀成鳥の頭頂・顔・胸は褐色味が強く、夏羽と同様に冠羽は短めです（図 21）。

図 20　♂成鳥冬羽　2019.12.21

図 21　♀成鳥冬羽　2017.12.21

新鮮な冬羽には肩羽、雨覆に淡色の羽縁がありますが、日の経過とともに羽縁は擦れにより消失します（図 22）。図 22 の♀成鳥は図 21 の♀成鳥より冠羽の短さが目立ちます。個体差もありますが、冠羽も生え変わるので。新しい冠羽が伸長中だと考えられます。

図 22　♀成鳥冬羽　2015.02.05

幼鳥と第 1 回夏羽に換羽中

図 23 の幼鳥は背・肩羽・雨覆の羽縁の内側に黒色のサブターミナルバンドが見えます。新鮮な幼羽にはサブターミナルバンドがありますが、消失するのも早いです。図 24 の個体は肩羽に新しい夏羽と擦れた冬羽が混在しています。雨覆、三列風切は擦れの激しさから幼羽と判断でき、第 1 回夏羽に換羽中と識別しました。

図 23　幼鳥　2014.10.26

図 24　第 1 回夏羽に換羽中　2012.03.13

最後に

タゲリは雌雄・年齢識別を冠羽の長短に頼りがちですが、冠羽が特に長い個体は♂成鳥と識別できるとしても、強調できるほどの長さがない場合、冠羽だけでは雌や若鳥との判別は難しく、他の特徴も合わせての判断が必要になります。1 年目の若鳥の冠羽も色々で、図 25 の個体は冠羽が殆どありませんが、他の特徴からして第 1 回冬羽個体です。

図 25　第 1 回冬羽　2012.02.07

会報への投稿を歓迎します

（編集部）

会報「しろちどり」では観察記録、エッセイ、フィールドの紹介などを受け付けています。記名を原則としています。また､写真やイラストでも結構です。写真には短いコメントを付けていただくと好都合です。いずれも当会ホームページの　ホーム最下段の「会報への意見・投稿」欄から投稿ください。

なお、郵送の場合は事務局に送付ください。

会報の公開について

（ 編集部）

当会会報「しろちどり」は会員向けの雑誌ですが、野鳥の記録など、重要な内容が含まれています。全国の野鳥愛好家、自然保護関係者にも内容を知ってもらうため、発行後 2 年を過ぎたものは当会ホームページで、PDF 形式で公開しています。現在は 1993 年発行の創刊号から 2019 年発行の 98 号までが全文公開されています。ただし、会員の電話番号など個人情報は削除して公表しています。また、特に重要な記事等一部は発行と同時に公開するものがあります。当会ホームページをご覧ください。

カワウ

ほのぼの鳥さんWatching

ツバメ邸 新築工事拝見

松阪市 中村 真理子

毎年 ツバメの姿が見られるようになるのは 3月15日頃。
数年前 物件の下見にツバメがヒラヒラ現れたので巣台を設置。
その次の日には新築工事が始まりました。

高さは2mくらいと低く 観察しやすい位置でした。
徐々に積み上げられていく土に期待が高まります。

4月27日 さあ!!100均の板の上に着工だ!!

4月28日 先は長そうだけど頑張って。

4月29日 奥に写っている台はお父さんが寝たり休憩したりするのに使っていました。

4月30日 壁側にもしっかりくっつけてます。

5月1日 材料の泥は けっこう水分が多そうです。

5月2日 藁にも重要な役割があるようですね。

5月4日 かなりの高さに積み上がりました。
内装作業に入ったようです。

5月10日

毎日1個づつ増えていく卵。
最終的に卵は6個になりました。

基本 抱卵はお母さんで
お父さんは前の電線で見張り番。
ヒナの誕生が楽しみです。

孵化してからの記録は
またお伝えできればと思います。

野鳥記録（2020 年 11 月 15 日から 2021 年 2 月 7 日までに報告があったもの）

野鳥の種類名	個体数	観察日	観察場所（三重県）	雄／雌／などの区別	記録報告者氏名	脚注
ミヤコドリ	30	2020/12/25	安濃川河口		唐津 敏明	1
ウソ	1	2020/11/24	亀山市		唐津 敏明	2
エゾビタキ	6	2020/10/ 3	鈴鹿市　岸岡山緑地		寺尾 幸太朗	3
セイタカシギ	7	2021/ 1/ 1	鈴鹿市		寺尾 幸太朗	4
ナベヅル	4	2020/12/20	松阪市曾原町	成鳥	西村 四郎	5
カラムクドリ	10	2021/ 1/ 9	宮川河口	雄、雌とも	西村 四郎	6
ツクシガモ	3	2021/ 1/ 9	宮川河口		西村 四郎	7
ムナグロ	1	2021/ 1/10	箕田海岸		今西 純一	8
セイタカシギ	8	2021/ 1/10	鈴鹿市		今西 純一	9
メジロガモ	1	2021/ 1/22	松阪市	雄	西村 四郎	10
ホオジロガモ	1	2021/ 1/16	木曽岬町　木曽岬干拓地	雌	笹間 俊秋	11
ハクチョウ sp.	8	2021/ 1/16	木曽岬町　木曽岬干拓地		笹間 俊秋	12
マガン	1	2021/ 1/ 1	鈴鹿市　山上池		笹間 俊秋	13
サバクヒタキ	1	2020/11/22	志摩市		濱屋 勝則	14
トモエガモ	14	2020/12/20	四日市市　北勢中央公園		三曽田 明	15

脚注

1. 個体の中に黄色のタグ T6 と読める個体がいました。
2. この時期に見たのは初めてでした。
3. 電線に止まっているのを発見。6 羽のエゾビタキが電線と木々を行き来していた。ホバリングしながら「フライングキャッチ」もしていた。
4. 川の堤防に 7 羽のセイタカシギが並んでいました。毎年群れで越冬しています。
5. 2020.12.5 からいるみたいですね。頭頂の赤い部分が目立ちませんが、若鳥ではないと思います。
6. 雄雌 10 羽前後がいました。三重県で見るのは初めて。木の実がたくさんあり、非常に良い場所。ソーラが来ないように。
7. カモの中にいる矢印の 3 羽です。ネット上では出ていたので、確認した。
8. ムナグロを海岸で見たのは初めて。左足が少し悪いような動きをしていました
9. 凍った川の中で元気に餌をとっていましたが、11 羽から 8 羽に減っていました。
10. 中村洋子、小野新子、加藤恭子、中村真理子各氏が観察されたものを再度確認。
11. 水路を泳いでいた。
12. 干拓地上空を 8 羽の群れ北上していった。嘴の特徴が分からなかったが、おそらくコハクチョウ。
13. 元旦から 1 月中ずっと滞在。他のカモに交じって餌を取っていました。
14. 海岸のゴルフ場に 11 月 22 日から 12 月 1 日まで滞在。
15. 2020/12/20 14 羽程、このとき (12/17) 関越自動車道では車 1000 台が立ち往生。2021/01/15 9 羽程、このとき (1/10) 北陸自動車道で車 1000 台が立ち往生。どうやら日本間側が大雪になると現れるようです .

脚注については観察者から寄せられたコメントの中で、種の識別、生息状況の把握に有意義なものを選んで、掲載します。文章はスペースの関係で適宜省略することがあります。（編集部）

ナベヅル：西村 四郎

セイタカシギ：今西 純一

マガン：笹間 俊秋

カラムクドリ：西村 四郎

サバクヒタキ：濱屋 勝則

メジロガモ：西村 四郎

ミヤコドリ T6

ミヤコドリ：唐津 敏明

エゾビタキ：寺尾 幸太朗

事務局だより

活動の記録（2020 年 12 月～ 2021 年 2 月）

2020 年

12/21　「度会・南伊勢風力発電所建設計画に係る環境影響評価方法書」に対する意見書を公益財団法人日本野鳥の会と当会との 2 者連名で電源開発株式会社へ提出

12/21　第 3 回ミヤコドリ一斉調査

12 月　来年度の探鳥会計画

2021 年

1/ 2　会報誌「しろちどり第 107 号」発行・発送作業

1/10　「(仮称) 青山高原風力発電所リプレース事業に係る環境影響評価方法書」について意見書を株式会社青山高原ウインドファームへ提出

1/15　松阪市立松ヶ崎小学校で児童（5・6 年生）対象にカモ観察会を行った (松阪地区)

1/17　県委託・令和 2 年度 (第 52 回) ガンカモ類及びカワウ一斉調査

1/21　第 4 回ミヤコドリ一斉調査

2/ 1　「木曽岬干拓地のさらなる開発の中止についての要望書」を公益財団法人日本野鳥の会・日本野鳥の会愛知県支部・当会との 3 者連名で県へ提出

2/ 9　令和 2 年度紀伊長島鳥獣保護区カワウ保護管理対策連絡協議会へ出席（代表）

探鳥会報告（2020 年 11 月～ 2021 年 1 月）

あいかわらず、新型コロナウイルスは県内でも蔓延しています。条件の整った探鳥会は開催しますが、中止のものもあります。また、直前に中止になる場合もあります。リーダーに問い合わせる、あるいは当会のホームページ、Twitter(@wbsj_mie**) などで確認してください。**

なお、ひとりで、あるいは夫婦や子供と探鳥し、他人に合わない場合はほとんど感染の可能性がありません。大いに「ひとり探鳥」を楽しんでください。

●木曽岬干拓地探鳥会

2020 年 11 月 22 日（日）9：00 ～ 12：00
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曽岬干拓地
共催団体／愛知県野鳥保護連絡協議会
米倉 静　笹間俊秋　参加者 7 名（会員 7 名）

オカヨシガモ (6)、マガモ (25)、カルガモ (20)、ハシビロガモ (17)、コガモ (100)、ホシハジロ (1)、カイツブリ (2)、カンムリカイツブリ (1)、キジバト (1)、カワウ (800)、アオサギ (3)、ダイサギ (7)、オオバン (6)、クサシギ (1)、イソシギ (2)、ミサゴ (7)、トビ (5)、チュウヒ (2)、ノスリ (2)、カワセミ (2)、チョウゲンボウ (1)、モズ (5)、ハシボソガラス (80)、ハシブトガラス (20)、ヒバリ (2)、ヒヨドリ (30)、ウグイス (1)、メジロ (10)、ムクドリ (180)、シロハラ (1)、ツグミ (30)、ジョウビタキ (6)、スズメ (200)、ハクセキレイ (5)、セグロセキレイ (1)、タヒバリ (6)、カワラヒワ (22)、ホオジロ (5)、アオジ (1)、ドバト (30)　計 40 種

溜池や水路には徐々にカモ類が増えてきました。電線にはムクドリの群れが多数確認され、あちこちでジョウビタキの声も聞こえてきます。渡り鳥の姿は見えなくなり、冬鳥の数が増えてきていました。

●安濃川河口探鳥会　中止

2020 年 11 月 22 日（日）13：00 ～ 14：30
津市高洲町　安濃川河口
落合 修　参加者 1 名（会員 1 名）

オカヨシガモ、マガモ、オナガガモ、ホシハジロ、スズガモ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、カワウ、ダイゼン、シロチドリ、メダイチドリ、ミヤコドリ、ミユビシギ、ハマシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、ミサゴ、モズ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、カワラバト　計 24 種

風も無く、おだやかな日でした。

カモ類は まだそろっていなく、ミヤコドリは 19 羽いました。当日は、鳥の写真を撮っている人が 5 ～ 6 人いました。

●三滝川かんさつ会

2020 年 11 月 30 日（月）9：30 ～ 12：00
三重郡菰野町　三滝川河川敷
矢田栄史　鈴木健真　　参加者 3 名（会員 2 名）

カワウ、アオサギ、クサシギ、カワセミ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ベニマシコ、イカル　計 22 種

集合場所の駐車場で、不明の鳥の巣をまず観察する。冬鳥は、ツグミ、シロハラ、ベニマシコ、ジョウビタキなど。対岸の水面近くヨシに止まるカワセミや、えん堤にいるクサシギなどを観察した。

●身近な冬鳥を観察しよう (博物館周辺の溜池)

2020 年 12 月 5 日（土）9：30 ～ 11：30
津市一身田上津部田　三重県総合博物館周辺の溜池
共催団体／三重県総合博物館・三重県環境学習情報センター
平井正志　木村京子　参加者 14 名（会員 2 名）

カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カイツブリ、カワウ、アオサギ、バン、オオバン、オオタカ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、メジロ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、アオジ　計 19 種

よく晴れて、風も弱く、絶好の日和であった。

博物館内でカモの体の作りなどを紹介した後、おおさん池に出た。早々にオオタカの成鳥が池上空を舞った。その後、ひょうたん池などを見た。カモ類ではハシビロガモが非常に多く、カモ類の多様性の減少が心配である。

催しの様子は翌 6 日の中日新聞に掲載された。

ツクシガモ

●木曾三川公園 合同探鳥会

2020 年 12 月 6 日（日）9：30 ～ 11：30
桑名市・海津市・愛西市　揖斐川・長良川・木曽川
笹間俊秋　参加者 31 名（当会会員 6 名　他支部会員 25 名）
共催団体：愛知県支部、岐阜支部、遠江支部

ヒドリガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、キンクロハジロ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、タゲリ、ケリ、イカルチドリ、イソシギ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、オオタカ、ノスリ、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ、カワラヒワ、アオジ、ドバト　計 41 種

4 県の会員限定で合同探鳥会を開きました。この日は快晴で暖かく探鳥日和となりました。密にならないように 2 班に分かれての探鳥でした。

集合場所ではジョウビタキが迎えてくれていました。園内ではムクドリ、ツグミ、モズがいました。途中で田んぼも観察し、イカルチドリ、ケリ、タゲリ、ノスリが観察できました。松林の中にはビンズイ、木曽川河口部にはカモもいましたが、暖かかったためか数は少なかったです。他県の会員の方たちと楽しく交流することができました。

●ベルファーム探鳥会

2020 年 12 月 6 日（日）9：30 ～ 11：30
松阪市伊勢寺町　松阪市農業公園ベルファーム
加藤恭子　中村洋子　参加者 16 名（会員 15 名）

マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、キンクロハジロ、ミコアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、キジバト、アオサギ、ダイサギ、オオバン、イカルチドリ、コチドリ、クサシギ、イソシギ、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ　計 32 種

ベテランばかりの探鳥会で、のんびりと開催しました。カモ類も、ミコアイサ、キンクロハジロ、など沢山来ていました。ハシビロガモがクルクル円を描きながら餌をとる様子も見られました。最後の池では、今日はカワセミは出てこないのかなと言っていたら、カワセミが現れ、じっと枝に止まって姿をじっくり見せてくれました。

●員弁川探鳥会　中止

2020 年 12 月 13 日（日）9：00 ～ 11：00
いなべ市員弁町　員弁川周辺
笹間俊秋　　参加者 1 名（会員 1 名）

コガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、トビ、ノスリ、コゲラ、ハヤブサ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、ドバト　計 24 種

感染拡大のため開催を中止しました。当日は晴れていましたが風が強く寒い日になりました。

観察開始直後に上空をハヤブサが舞い、周辺にいるドバトが 1 羽もいなくなりました。周辺の田んぼには何もいませんでしたが、遠くに田起こしのトラクターがいたので、鳥たちはそちらへ行っているようでした。小川にはキセキレイ、コガモがいました。員弁川の木々にはシジュウカラ、シメ、ジョウビタキがおり、キャベツ畑にはたくさんのホオジロやツグミがいて、上空にはトビが 4 羽絡みながら旋回していました。

●横山池・安濃ダム探鳥会

2020 年 12 月 13 日（日）10：00 ～ 11：40
津市芸濃町　横山池・安濃ダム
落合 修　奥山正次　　参加者 5 名（会員 5 名）

オシドリ、オカヨシガモ、マガモ、カルガモ、コガモ、ホシハジロ、ミコアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、トビ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ハクセキレイ、カワラヒワ、カシラダカ　計 20 種

風が強く寒い日でした。横山池ではミコアイサ♀ 4 ♂ 1 いました。他にオシドリ♀ 1 ♂ 3 いました。ベニマシコは観察できませんでした。

場所を移動して安濃ダムでは、カモ類も山の鳥も観察できなかったのですが、終りがけにオシドリが♀ 1 ♂ 3 飛来してきて、数が同じなので横山池から飛んできたと思われます。

ハイタカ

●磯部川水系探鳥会　中止

2020 年 12 月 13 日（日）は中止しました。
2020 年 12 月 19 日（土）一人探鳥。
志摩市磯部町穴川　穴川～迫間
濱屋勝則　　参加者 1 名（会員 1 名）

ヒドリガモ、カルガモ、キンクロハジロ、カンムリカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、ミサゴ、トビ、チュウヒ雌、カワセミ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ムクドリ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、タヒバリ、カワラヒワ、ホオアカ　計 21 種

寒波の影響でしょうか？　時折冷たく感じる風も吹いていましたが、我慢出来ない程では無く、助かりました。本来なら開催日に回るはずでしたが、都合が悪くなり変更しました。探鳥会の時の様に、複数の方々の目で見られたら、もう少し種類も多く見られたと思います。

今回はコロナの影響で開催を断念しましたが、今後は終息してくれて以前の様に、また多くの方々と探鳥を楽しめたらと願うばかりです。

●木曽岬干拓地探鳥会

2020 年 12 月 27 日（日）9：00 ～ 11：30
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曽岬干拓地
共催団体／愛知県野鳥保護連絡協議会
近藤義孝　笹間俊秋　参加者 12 名（会員 12 名）
それぞれ別々に観察

オカヨシガモ (6)、マガモ (30)、カルガモ (4)、ハシビロガモ (4)、コガモ (34)、ホシハジロ (6)、キンクロハジロ (4)、カイツブリ (2)、カンムリカイツブリ (1)、ハジロカイツブリ (1)、キジバト (1)、カワウ (20)、アオサギ (3)、バン (1)、オオバン (10)、タゲリ (16)、タシギ (4)、イソシギ (1)、ミサゴ (5)、トビ (8)、チュウヒ (3)、ハイイロチュウヒ (1)、ハイタカ (1)、ノスリ (2)、カワセミ (2)、チョウゲンボウ (1)、モズ (4)、ハシボソガラス (30)、ハシブトガラス (50)、シジュウカラ (1)、ヒバリ (2)、ヒヨドリ (50)、ウグイス (2)、メジロ (1)、ムクドリ (170)、ツグミ (100)、ジョウビタキ (4)、イソヒヨドリ (1)、スズメ (40)、ハクセキレイ (5)、セグロセキレイ (1)、タヒバリ (20)、カワラヒワ (15)、ベニマシコ (1)、ホオジロ (5)、アオジ (1)、ドバト (11)　計 47 種

最初からハイイロチュウヒやミサゴなどが次々に現れました。この探鳥会では珍しい鳥はいなかったのですが、合計では 47 種も観察できました。

●木曽岬干拓地探鳥会

2021 年 1 月 24 日（日）9：00 ～ 12：00
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曽岬干拓地
共催団体／愛知県野鳥保護連絡協議会
米倉 静　笹間俊秋　　参加者 5 名（会員 5 名）

オカヨシガモ (18)、ヒドリガモ (4)、マガモ (15)、カルガモ (70)、ハシビロガモ (22)、コガモ (10)、ホシハジロ (17)、カンムリカイツブリ (2)、ハジロカイツブリ (1)、キジバト (30)、カワウ (6)、アオサギ (4)、ダイサギ (1)、オオバン (10)、タゲリ (3)、イソシギ (1)、カモメ (1)、セグロカモメ (1)、ミサゴ (3)、トビ (1)、チュウヒ (2)、ハイイロチュウヒ (1)、カワセミ (3)、チョウゲンボウ (1)、ハヤブサ (1)、モズ (3)、ハシボソガラス (30)、ハシブトガラス (10)、ヒバリ (2)、ヒヨドリ (30)、ウグイス (1)、メジロ (5)、ムクドリ (700)、ツグミ (100)、ジョウビタキ (3)、スズメ (500)、ハクセキレイ (5)、セグロセキレイ (2)、カワラヒワ (4)、ホオジロ (6)、ドバト (100)　計 41 種

前日からの雨も開始時間には止んでいましたが、1 時間ほどしたら、また降り出しました。

溜池にはたくさんのカモがいて、船着き場には珍しくカモメが 2 羽いました。鍋田ではハイイロチュウヒ雌が目の前を通り、電線にはハヤブサとチョウゲンボウが獲物を探していました。干拓地では雨の中、チュウヒが 2 羽飛んでいました。

●上野森林公園探鳥会　中止

2021 年 1 月 25 日（月）
伊賀市下友生松ヶ谷 1　三重県上野森林公園
共催団体／上野森林公園・三重県環境学習情報センター
前澤昭彦　　参加者 1 名（会員 1 名）

オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、カイツブリ、カワウ、ダイサギ、オオバン、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、トラツグミ、シロハラ、ホオジロ、アオジ　計 21 種

探鳥会は中止でしたが、翌日に観察しました。

胸がやや赤褐色の夏羽に変わりつつあるミミカイツブリがいました。2 月末までいてくれると金色の夏羽が顔に出てくるのを観察できるのかなと思いました。

●木曾三川探鳥会　中止

2021 年 1 月 26 日（火）9：00 ～ 11：00
桑名市・海津市・愛西市　揖斐川・長良川・木曽川
共催団体／桑名市
笹間俊秋　近藤義孝　　参加者 2 名（会員 2 名）

マガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、キンクロハジロ、カイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、シロチドリ、ミサゴ、チュウヒ、ノスリ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、オオジュリン　計 25 種

緊急事態宣言が出ていて平日ということもあり、参加者はなく中止しました。その後、リーダーのみで観察に行きました。

揖斐川や木曾川などカモの種類は少なく全体的に鳥は少な目でした。背割り堤前の公園駐車場にはシロチドリが 6 羽休んでおり、葦原にオオジュリン、チュウヒ、ノスリが飛翔していました。

ひとり探鳥　北勢中央公園

場所　四日市市　北勢中央公園
日時　2021 年 1 月 21 日　9：00 ～ 10：30
鈴木建真

ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、トモエガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、カイツブリ、カワウ、アオサギ、イカルチドリ、カワセミ、コゲラ、アオゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、マヒワ、ベニマシコ、シメ、イカル、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、コジュケイ　計 38 種

1 時間半程で 38 種の鳥を見ることができた。トモエガモやミコアイサなどカモの仲間も 9 種類確認することができた。カモばかり見ていると気がつかないが池の水が乾いたところにイカルチドリが数十羽いて採餌している。小鳥ではマヒワやカシラダカ。セイタカアワダチソウの生えたエリアでベニマシコの声も確認できた。

ひとり探鳥　根の平峠 - コクイ谷出合 - 杉峠 - 佐目峠 - イブネ

場所　朝明 P- 根の平峠 - コクイ谷出合 - 杉峠 - 佐目峠 - イブネ
日時　2020 年 12 月 29 日
辻 秀之

ヤマドリ、アオゲラ、ミソサザイ、カワガラス , 計 4 種　その他　カラス sp.

クリスマス前の雪は朝明駐車場まで残っていて , いつものカラの混群やツグミ類はみな山を下りてしまい、残っていたのは渓谷のミソサザイやカワガラス、中型のキツツキ、ヤマドリくらいのものだった。ヤマドリは山歩きしていると足元から突然飛び立って驚かされるが、この日は積雪の上に足跡が縦横についていた。林床の下草や落ち葉などはみな雪の下で、何を食べているのだろうと不思議だった。

イブネとはおかしな山の名前だが、朝明から千種街道を歩いて、根の平峠で県境稜線を越えて愛知川に下り、そこからもうひと登りもふた登りも登り返したところにある鈴鹿最深部、標高 1160m の穏やかなピークである。緑の苔の絨毯と 360°山に囲まれた眺望が魅力だが、冬には西からの季節風を遮るものがなく、爆風に難儀する。この日はたまたま穏やかな日で、無風高曇りのイブネの頂上からは , 神々しい白山、御岳、中央アルプス、北アルプスまで眺望できた。鳥は低調でも山歩きとしては満足できた一日だった。

イブネ頂上からの眺望　遠景の白い山は加賀白山

ひとり探鳥　宮川河口

場所　宮川河口（伊勢市大湊）
日時　2021 年 1 月 4 日　10：00 ～ 12;00　晴
中西 章

コクガン（8）、ツクシガモ（4）、オカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、スズガモ、ウミアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイゼン、ハマシギ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、ハシブトガラス　計 20 種

宮川河口は冬になるとカモたちで賑わう。数が多いのはスズガモ、ヒドリガモ、マガモ、オナガガモ、カルガモで、シーズンにもよるが多いときは 2000 羽近くになる。その中にコガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ウミアイサなどが混じる。今シーズンもコクガン 8 羽とツクシガモ 4 羽がやってきた。自分が毎年定期観察するようになって 4 期連続だ。ただ雲出川河口と行き来しているので、三重県飛来数は同時にカウントしないと正確でないだろう。シギチはハマシギやダイゼンなどいずれも遠くの中州にいるので小さくて見づらい。猛禽類はミサゴとトビが河口周辺に点々としている。昨シーズンは対岸の豊浜にてハイイロチュウヒ雄が 3 カ月ほど居座ったが、今シーズンは残念ながら来ていないそうだ。

宮川河口のコクガン

ガンカモ調査終了

研究部　前澤 昭彦
代表　　平井 正志

ことしも 1 月のガンカモ調査が終了しました。基準日は 1 月 17 日で、多くの方がこの日に調査されました。合計で 30 名の方が調査に参加し、全体で 178 か所を調査しました。
ご協力ありがとう、ございます。

調査結果は無事、三重県に収めました。結果については三重県の許可が出てから、一部を会報に掲載します。全体の結果は環境省のホームページで公開されますが、かなり後になると思います。

なお、調査する地点の位置や調査範囲など、各調査地の情報をまとめております。
ご協力ください。

編集後記

2021 年 1 月、2 月に地元のケーブルテレビでミヤコドリとチュウヒを取り上げてもらい放送していただいた。その際、取材でインタビューを受けたが緊張して、とても普段のようにしゃべることができなかった。

いつもテレビを見ていて出演者に、もっとうまくしゃべれないものかと思っていたが、いざ自身がその立場になってみると、うまくいかないものである。伝えると言うことは難しいと痛感させられた出来事であった。

この経験を編集にも生かして、みなさんへ野鳥のことをうまく伝えていきたい。（T. S.）

しろちどり　108 号
2021 年 3 月 1 日発行
題　字：濱田 稔
表紙絵：小坂 里香
カット：平井 正志
編　集：平井 正志・笹間 俊秋・三曽田 明
発行所：日本野鳥の会三重
平井 正志　方
〒 514-2325 津市安濃町田端上野 910-49
ホームページ　http://miebird.org/
印　刷：株式会社プリントパック
〒 617-0003 京都府向日市